

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県多良間島

増産プロジェクトにおける令和5年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和5年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H28年産実績	242	-	55	297	9,442	-	4,634	8,552	22,850	-	2,549	25,398
H29年産実績	244	-	69	313	8,810	-	5,672	8,118	21,497	-	3,914	25,410
H30年産実績	211	-	101	312	8,971	-	5,937	7,989	18,951	-	6,005	24,956
R元年産実績	207	-	110	317	7,114	-	3,965	6,021	14,726	-	4,362	19,087
R2年産実績	202	-	110	312	9,759	-	6,098	8,468	19,713	-	6,708	26,420
R3年産実績	219	-	144	364	10,154	-	7,204	8,983	22,288	-	10,410	32,698
R4年度実績	183	-	171	354	7,751	-	4,084	5,978	14,180	-	6,993	21,173
R5年増産計画	215	-	100	315	8,700	-	5,395	7,651	18,705	-	5,395	24,100
R5年増産実績	180	-	145	325	6,825	-	-	6,072	12,285	-	7,451	19,736
(対計画比%)	(83.7)	(0.0)	(145.0)	(103.2)	(78.4)	(0.0)	(0.0)	(79.4)	(65.7)	(0.0)	(138.1)	(81.9)
(対前年比%)	(98.4)	(0.0)	(84.8)	(91.8)	(88.1)	(0.0)	(0.0)	(101.6)	(86.6)	(0.0)	(106.5)	(93.2)
R7年産増産計画	290	-	20	310	8,300	-	4,500	8,100	24,070	-	900	24,970

2 その他指標の動向 令和4年産→令和5年産

・株出栽培の割合	48.3%	→	44.6%	・さとうきび作農家戸数	230戸	→	218戸
・平均糖度	14.3度	→	15.3度				

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和5年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="481 220 1142 331"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>315ha</td> <td>7,651kg/10a</td> <td>24,100t</td> </tr> <tr> <td>(計画)</td> <td>325ha</td> <td>6,072kg/10a</td> <td>19,736t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5/6年度のさとうきび生産量は、19,735tで、昨年の21,172tと比較すると2,000t以上の減産となり、3年連続で減産となった。減産に至った要因としては、夏場の生育旺盛期に小雨と気象条件が厳しく、夏植に大きく影響が出た。また、株出しでも黒穂病蔓延による生育不良が要因となり減産と大変厳しいものになった</p> <p>近年は、農家の高齢化が進み労働力の不足となり夏植面積の割合が減少している。また、株出し面積の増加に伴い黒穂病が蔓延となり今後の更なる減産が懸念される</p> <p>新たに収穫機械及びビレットプランター等の植付機械導入し労働力不足の軽減、苗用ほ場からの健全苗確保によりさとうきびの安定的、持続的な生産を図る</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	315ha	7,651kg/10a	24,100t	(計画)	325ha	6,072kg/10a	19,736t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	315ha	7,651kg/10a	24,100t										
(計画)	325ha	6,072kg/10a	19,736t										
	<ol style="list-style-type: none"> ① 干ばつ対策や病虫害防除のための早期対応 ② 株出面積の拡大による単収低下の懸念 ③ ため池による水源確保、農地防風防潮林の整備 ④ 高齢化に伴う担い手の減少及び農業機械の老朽化 ⑤ 地力増進を図るため土づくり(堆肥、緑肥)の意欲醸成 ⑥ 7割以上を占める、品種(Ni27号)への大きな偏り 												
<p>令和5年産における取組方針</p>	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水源が少なく干ばつの被害を受けやすいため、ため池整備による水源確保及びかん水の支援 ② 台風被害軽減のため防風、防潮林の必要性の啓発、整備の推進 ③ 緑肥、堆肥の投入による地力増強による化学肥料の低減を目指した島ごとエコファーマーの取組推進 ④ 早期病虫害防除の推進 ⑤ 作業受委託体制の整備及び労働力の軽減を目的とした新規植付機械導入に向けた検討 ⑥ 地域の取組や特性に合わせた優良品種の導入及び普及 												
<p>主要な取組のスケジュール</p>	<p>さとうきび増産対策の具体的な取り組みとして</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 島ごとエコファーマーの取組継続に向けて化学農薬・肥料低減、土づくりのための堆肥散布(周年)、緑肥配布(2月) ② さとうきび生産組合を中心に、関係機関連携の下で栽培の基本技術の啓発を行う(周年) ③ 地域の実態に即した担い手及び受託組織の育成(周年) ④ 病虫害対策のための対策、可動式誘殺灯を活用したアオドウガネ防除、セーフティネット活用での農薬補助、一斉防除の実施(周年) ⑤ 収穫作業の合理化を推進するため、中核的な担い手を中心に機械化一貫体系を図る(周年) ⑥ 中核的な担い手を中心とした機械化一貫体系を図る(周年) ⑦ 新規機械導入検討のための実演会の開催 ⑧ さとうきび共済の加入促進(10月) 												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
<p>①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核的なさとうきび担い手の確保のため認定農業者の育成及び申請支援 ・認定農家制度及び農業経営に関する講習会の実施 ・新規就農者への経営講習会の開催 <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="443 405 1400 576"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>13</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼業率が高く、高齢化進行による労働力不足 ・農業法人の設立及び育成 		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	認定農業者	13	23	16	13	15	12	18	19	農業法人	-	-	-	1	2	1	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者、農業法人、受託組織の育成 ・機械化を促進し、労働力の軽減及び担い手の経営基盤の強化 																											
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																																																
認定農業者	13	23	16	13	15	12	18	19																																																
農業法人	-	-	-	1	2	1	1	4																																																
<p>②農業共済制 度への加入促 進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穫畑の聞き取り時に農家への説明を行い加入促進を図った <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="443 831 1400 1214"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 (29年産)</th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> <th>R5 (R6年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>173</td> <td>163</td> <td>142</td> <td>145</td> <td>144</td> <td>132</td> <td>134</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>73.6</td> <td>69.7</td> <td>64.3</td> <td>61.4</td> <td>61.3</td> <td>56.2</td> <td>57.0</td> <td>61.0</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>236</td> <td>226</td> <td>193</td> <td>200</td> <td>222</td> <td>165</td> <td>146</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>75.4</td> <td>72.4</td> <td>60.8</td> <td>64.1</td> <td>61.0</td> <td>53.0</td> <td>40.1</td> <td>73.0</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>234,642</td> <td>246,031</td> <td>218,168</td> <td>231,469</td> <td>257,724</td> <td>257,321</td> <td>-</td> <td>17,753</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <p style="text-align: right;">注) R4、R5年産の数値については概算値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、小規模農家の共済制度に対する理解が十分でない ・説明会や関係機関のさとうきび調査等開催の場が減ったことで周知不足 		H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	加入戸数 (戸)	173	163	142	145	144	132	134	133	戸数引受率 (%)	73.6	69.7	64.3	61.4	61.3	56.2	57.0	61.0	引受面積 (ha)	236	226	193	200	222	165	146	194	面積引受率 (%)	75.4	72.4	60.8	64.1	61.0	53.0	40.1	73.0	共済金額 (千円)	234,642	246,031	218,168	231,469	257,724	257,321	-	17,753	<ul style="list-style-type: none"> ・単位あたり共済金額の個人選択制を推進する ・原料代金からの共済掛け金の引き落としを活用 ・要件審査等の関係機関の調査に合わせた農業共済制度の説明及び推進
	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)																																																
加入戸数 (戸)	173	163	142	145	144	132	134	133																																																
戸数引受率 (%)	73.6	69.7	64.3	61.4	61.3	56.2	57.0	61.0																																																
引受面積 (ha)	236	226	193	200	222	165	146	194																																																
面積引受率 (%)	75.4	72.4	60.8	64.1	61.0	53.0	40.1	73.0																																																
共済金額 (千円)	234,642	246,031	218,168	231,469	257,724	257,321	-	17,753																																																

(2) 生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題									今後の取組方向																																				
<p>① 気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源の整備、かんがい施設の整備、防風・防潮林整備を促進した ・防風林を整備した ・水源確保のため集水路の清掃及び整備を行い集水料の確保を図った <p>【目標の達成状況】 (単位: %)</p> <table border="1" data-bbox="443 518 1400 791"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 実績</th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>84.1</td> <td>85.2</td> <td>86.2</td> <td>88.3</td> <td>93.4</td> <td>97.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.6</td> <td>34.8</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.4</td> <td>10.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑地かんがい整備はほとんど未整備であり、ため池等の水源も少ない ・台風対策として防風・防潮林の整備が必要 ・干ばつ対策の早期取組 										H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	ほ場整備率	84.1	85.2	86.2	88.3	93.4	97.0	100.0	100.0	水源整備率	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.6	34.8	畑地かんがい整備率	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.4	10.5	<ul style="list-style-type: none"> ・畑地かんがい整備の拡充促進 ・防風林の整備計画を策定し、推進する ・干ばつ発生時に迅速な対応が出来る様早期の体制整備及び実施のとかん水の重要性を農家に周知
	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込																																						
ほ場整備率	84.1	85.2	86.2	88.3	93.4	97.0	100.0	100.0																																						
水源整備率	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.6	34.8																																						
畑地かんがい整備率	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.4	10.5																																						

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業機械の収穫機械の長寿命かを図るため機能向上に向けた支援を行った ・収穫機械の作業受託推進を行った <p>【目標の達成状況】 (単位: 台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="443 368 1400 632"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>181</td> <td>219</td> <td>220</td> <td>241</td> <td>208</td> <td>262</td> <td>249</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>60.9</td> <td>70.0</td> <td>70.3</td> <td>76.2</td> <td>66.7</td> <td>72.0</td> <td>73.8</td> <td>76.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良品種の単収増加に伴い、機械収穫の効率性が低下したほ場が見られた ・含密糖の品質保持を図りながら地域の実態に即した植え付け、収穫機械化体系の確立が必要 ・作業受委託体制が未構築であり新植夏植や適期株出管理作業が適切に行われない事例が散見される 		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	ハーベスタ 稼働台数	7	8	8	8	8	8	8	8	ハーベスタ 収穫面積	181	219	220	241	208	262	249	249	ハーベスタ 収穫率(面積)	60.9	70.0	70.3	76.2	66.7	72.0	73.8	76.6	<ul style="list-style-type: none"> ・作業受委託組織の体制づくりのため関係機関との協議を進める ・農業機械の効率的な利用推進、運営委員会等との連携強化を図る ・収穫機械の老朽化による効率低下を改善すべく、機能向上や新たな機械導入
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																														
ハーベスタ 稼働台数	7	8	8	8	8	8	8	8																														
ハーベスタ 収穫面積	181	219	220	241	208	262	249	249																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	60.9	70.0	70.3	76.2	66.7	72.0	73.8	76.6																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑肥作物(クロタリヤ・緑肥用ひまわり)を利用した有機物の畑地還元による土づくりを実施した ・ほ場当たりの堆肥の具体的な利用量を示し、活用を推進した ・村堆肥施設の生産性を上げるため作業効率の向上及び原料の確保を図った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑肥作物と堆肥を使った土作りに対する理解不足 ・島ごとエコファーマーの取組による堆肥及び緑肥を活用した持続的な農業の継続・強化が求められる ・堆肥センターの人手不足による堆肥製造の遅れや攪拌機及び振るい機がないことで品質が不安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥利用の普及啓発を行い、事業等活用し農家負担の軽減を図る ・緑肥栽培を奨励するとともに、鋤き込みなど受委託作業を確立する ・作業員の確保・育成、トップターン等の機械導入による生産性の安定化を図る ・関係機関が連携して、島ごとエコファーマー認定による、継続的に持続性の高い農業生産方式の意識向上に努める 																																				

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																													
<p>① 病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ類・アブラムシ対策のため、一斉防除を実施した ・可動式誘殺灯を設置し、アオドウガネ防除を実施した ・メイチュウ類やアブラムシへの薬剤の散布方法について周知を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の多様化に伴い、効果的な農薬利用を呼びかけ ・株出面積の増加に伴い黒穂病が増加している ・エコファーマーで取り組んでいる農薬使用回数低減、適正使用の呼びかけ ・誘殺灯の老朽化が進み、設置数が不足しているため島内を網羅出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生予察の強化、早期防除対策の実施 ・セーフティーネット事業等を活用し、誘殺灯の更新を行い島内全域への設置をする事で誘殺数の向上を図る ・可動式誘殺灯等の適正管理、運用 ・病害虫防除を目的とした早期ロータリー耕うんの啓発 ・病害虫防除、侵入防止について農家への意識向上を図るための呼びかけ周知を強化 ・エコファーマーでの取組である農薬使用回数低減の意識向上 																																													
<p>② 優良品種の選択・普及</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良品種への計画的な転換を図った ・種苗管理センターからの健全種苗の供給と優良種苗の普及に努めた <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="443 874 1400 1102"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 (実績)</th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林15号</td> <td>19.5</td> <td>18.8</td> <td>6.1</td> <td>1.9</td> <td>1.0</td> <td>0.3</td> <td>-</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>宮古1号</td> <td>3.7</td> <td>3.2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>16.8</td> <td>17.3</td> <td>13.5</td> <td>16.4</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>16.9</td> <td>14.2</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>55.5</td> <td>52.1</td> <td>56.7</td> <td>63.7</td> <td>72.4</td> <td>76.6</td> <td>77.4</td> <td>79.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域適応性品種の選定及び導入 ・災害に強く、安定多収性品種の導入、普及 ・健全無病苗に対するほ場の管理不足 		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	農林15号	19.5	18.8	6.1	1.9	1.0	0.3	-	0.6	宮古1号	3.7	3.2	-	-	-	0.3	-	-	農林22号	16.8	17.3	13.5	16.4	17.3	15.4	16.9	14.2	農林27号	55.5	52.1	56.7	63.7	72.4	76.6	77.4	79.7	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に強い品種導入、含蜜糖地域特有の品種導入に際して品種構成の適正化を図る ・Ni27の比率が高いため、新品種を導入する等品種構成の適正化を図る ・健全無病苗の活用、生産性向上等、苗ほの健全な栽培管理の適正化を図る ・講習会などを実施し、地域にあった優良種苗の必要性を啓発する
	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)																																							
農林15号	19.5	18.8	6.1	1.9	1.0	0.3	-	0.6																																							
宮古1号	3.7	3.2	-	-	-	0.3	-	-																																							
農林22号	16.8	17.3	13.5	16.4	17.3	15.4	16.9	14.2																																							
農林27号	55.5	52.1	56.7	63.7	72.4	76.6	77.4	79.7																																							

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび優良事例、広報機関誌を活用した普及、啓発を行った ・かん水ほ場の設置による増収効果のPRを行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に適した品種の普及を促すためにも、品種特性を活かした適期植付及び管理 ・持続性の高い農業生産方式を推進すべく、島ごとエコファーマーを意識した栽培技術の励行 ・単収向上を図るためにも、管理作業など、作業に遅れが発生しないよう適期管理の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会の実施により、基本的栽培技術の指導強化 ・農作業受託組織を育成し、機械化一貫体系の構築を推進する ・エコファーマーの栽培指標に準じ、化学農薬・肥料の使用量低減、有機物投入による土作りの取組意義の周知を図る
------------------	---	--